

本学における国際交流の意義とあり方

—海外研修旅行への取り組みから—

Significance and Activity of International Interchange in Uekusa-Gakuen Junior College — Bout of Overseas Study Tour —

松原 敬子¹ 古川 繁子²

2011年度は、4年ぶりに海外研修旅行の実施に至った。学生たちにとっては、在学中の海外研修旅行が貴重な経験となり、国際化への契機になることと期待される。この活動への取り組みを振り返り、さらに充実した海外研修旅行の確立を目指す礎とする。加えて、本学における国際交流の意義とあり方も含めて総括することを目的とした。

キーワード：国際交流、国際化、海外研修旅行、教育理念

1. はじめに

筆者らは、本学「国際交流委員会」の活動方向を先行研究の課題を踏まえながら探ってきた¹⁾。特に海外研修旅行について再考し、学生たちにとって魅力ある「海外研修」の企画に務めてきた。そこで、本稿では今回の海外研修旅行の報告を元に、より充実した海外研修旅行の確立を目指していく。さらには、本学における国際交流の意義とあり方を検証し、「国際交流委員会」における活動方向の示唆としていきたい。

2. 2011年度海外研修旅行の概要

1) 経緯

2011年度は、4年ぶりの海外研修旅行となった。毎年企画をしながらも、最少催行人数の10名にはほど遠く実施できない現状が続いていた。そこで、2010年度には藤国際幼稚園理事長藤原一昭先生をお招きし、ご講演をいただき下地作りから始めた。藤原先生のご協力の元、ホームステイ先を確保していただき、一人でも参加希望者がいれば実施可能なプログラムとした。幸いにも12名の参加希望があり実

施に至った。研修2日間・ホームステイ3泊という短い期間ではあったが充実した研修となった。

2) 活動の概要

(1) 日程

2011年9月11日(火)～9月15日(金) 5日間
(3泊5日※機内泊1泊)

月日	時間	スケジュール	食事
9月11日(日)	夜	成田出発	なし
9月12日(月)	早朝	ゴールドコースト到着 カランビン動物園へ 園内にてランチ	朝：×
	午後	カランビンビーチ 藤国際幼稚園へ オリエンテーション	昼：×
	夕方	ホームステイ先へ	夜：○
9月13日(火)	9:30	藤国際幼稚園へ	朝：○ 昼：○ 夜：○
	10:00	クラスに入り子どもと関わる	
	12:30	日本語授業見学	
	13:30	ランチ 講義：オーストラリアの幼稚園について	
	15:00	クラスに入り子どもと関わる	
	16:00	ホームステイ先へ	

1, 2 植草学園短期大学

月 日	時 間	スケジュール	食 事
9月14日(水)	9:30	藤国際幼稚園へ クラスに入り子どもと関わる 質疑応答	朝:○
	12:30	ランチ	昼:○
	13:30	エクスカージョン サーファーズパラダイス見学	夜:○
	16:00	ホームステイ先へ	
9月15日(木)	午前	藤国際幼稚園集合 ゴールドコースト空港へ 日本に帰国	朝:○ 昼:×

(2) 場所：オーストラリア（ゴールド・コースト）
藤国際幼稚園

(3) 参加人数：学生12名・教員2名

植草学園短期大学 児童障害福祉専攻 1年：5人
2年：3人
植草学園大学 発達教育学部 3年：3人
2年：1人

(※海外旅行初体験者：6人/12人)

3) 藤国際幼稚園の概要

藤国際幼稚園は、1992年2月1日、1日65人の子
どもたちを預かる幼児教育施設として開園1993年2
月、施行された新法令に添って、施設の増設改善を
行い75人まで定員が増した。1995年4月敷地内に第
二園舎を建築、2008年4月ベビークラスがオープン
して生後6週間から6歳児まで預かる、定員114名
の施設となった。現在は、30余ヶ国の異なる文化背
景を持つ子どもたち約200名が在籍している。

(1) 幼稚園は、オーストラリア、クイーンズラン
ド州、ゴールドコーストのロビナ地区にある。ゴール
ドコーストは、オーストラリアきっての観光地で
国内はもとより海外からも多くの人を訪れる。ゴール
ドコーストとは、ニューサウスウェールズ州との
州境の町クーランガッタからブリスベンの南80キロ
にあるサウスポートまで42キロにわたる白砂とエメ
ラルドグリーンの海に沿った地域を指し、市の名称
ともなっている。ゴールドコースト市の人口は、約
540,000人で、内日本人は、5,000人ほどといわれて
いる。

(2) 幼稚園の規模

敷地面積：300㎡ 第一園舎 396㎡

第二園舎 204㎡

生徒定員：第一園舎 68名 第二園舎 46名すみれ

教職員数：24人（理事長・園長を含む）

TE：Teacher 大学・大学院卒業 3人

GL：Group Leader 専門学校二年卒業 8人

AS：Assistant 専門学校一年卒業 8人

TR：Trainee 1人

OF：事務・給食・園庭管理など 4人

(3) 開園している時間・期間：

朝7：30～夕6：00 年52週休みなく開いてい
る。（土・日・法定休日は休園）

(4) クラス数とスタッフ

も も 6週間～2歳 8名

スタッフ：GL 1 + AS 1

う め 15ヶ月～2歳半 10名

スタッフ：GL 1 + AS 1

ば ら 2歳半～3歳 12(16)名

スタッフ：GL 1 + AS 1

き く 3歳～4歳 16(20)名

スタッフ：GL 1 + AS 1

ゆ り 3歳～6歳 24名

スタッフ：GL 1 + AS 1

すみれ 3歳～6歳 24名

スタッフ：GL 1 + AS 1

さつき 3歳～6歳 24名

スタッフ：TE 1 + AS 1

4) 研修旅行の実際

筆者らが滞在したゴールドコーストは、のんびり
と静かな地方都市という印象であった。オーストラ
リア全体の印象ではないが、広々とした、端正な町
であった。海がとてもきれいで、世界遺産に指定さ
れているバリアリーフが比較的近くに位置している。

早朝、ゴールドコースト空港に到着し、ゲートを出
ると、藤国際幼稚園理事長の藤原先生とご息女、
一美さんがお出迎えくださっていた。

到着した日の朝、真っ先に訪れたのが、まだ春の
肌寒さが残る海岸であった。クイーンズランド州と
隣の州の州境線があるところで、海上には波乗り
に興じる何隻かの波乗りボードが波間に垣間見ら
れた。オーストラリアを発見した、キャプテンクック
の胸像や海上を航海する船が、陸地に近づいてサン
ゴ礁や浅瀬に乗り上げるのを警戒する指標とした山
などのことを、藤原先生のご説明の中から知識を得

ることが出来た。

午前中は「カラビン動物公園」でオーストラリア固有の動物たちとの出会いの体験であった。筆者は少し疲れていたもので、入口近くのガーデンレストランの座席に座っていることが多かったが、座席のすぐそばまで、ペリカンに似た大きなくちばしを持った鳥やオオトカゲが来て驚いた。店の人は、人の食べ物を狙う為か、追い払っていたが、野鳥や野生の動物を眺めてのんびりと時間が過ごせる贅沢を味わうことが出来た。

一ヶ所、沢山のオウムに似たカラフルな鳥たちに朝食のミルクを与えているところがあった。筆者も、皿にミルクを入れてもらい、手にしていたら、またたく間に鳥たちが皿の周囲や手や肩や腕さらに、頭にまで止まり、爪痕をつけられたり、フンを浴びせられたりした。怖いというより、童心に還った楽しい体験であったことも思い出深い。

二日目、学生たちは藤国際幼稚園での実習に入り筆者も一緒に体験させていただいた。午前中は各部屋に藤原先生が訪れ、コマ回しのカウントを日本語で「一回、二回、三回……」と幼児と合唱したり、日本語の歌で手遊びをしたり、指人形を使ってのおはなしに日本語を混ぜたりといった、日本語レッスンを見学させていただいた。

午後は、園長先生の幼稚園教育の理念についてグループワークをしながらの講義に参加し聴講させていただいた。

学生たちは、翌日午前中の保育に参加した後、昼食時に修了証書をいただき記念撮影を終えると、旅行中唯一のゴールドコーストでのショッピングと観光をした。あっという間の3泊5日間であった。

3. 学生のアンケートによる振り返り

ここで学生が寄せたアンケートを元に海外研修旅行の意義を見出していく。

1) 研修について (藤国際幼稚園)

- ・オーストラリアや他国の子どもたちと関わりコミュニケーションがとれた。
- ・言葉は通じなくても子どもたちとたくさん関わられた。
- ・藤原先生の日本語レッスンも見学できた。

- ・部屋の環境設定が勉強になった。
- ・折り紙の折り方を習っていけばよかった。

2) 研修期間について

- ・短かった。
- ・慣れるのに2～3日かかり、やっと慣れたところで帰る時になってしまった。
- ・2週間位は滞在がしていたかった。

3) ホーム・ステイについて

- ・違う文化を身を持って体験できた。
- ・ホストファミリーがとても優しくかった。
- ・ホストファミリーと過ごすのが楽しく、早くホーム・ステイ先に帰るのが待ち遠しかった。
- ・一生懸命話をしてくれて、少しでも通じた時は嬉しかった。
- ・自立・自覚の面で良い経験になった。

4) 食事について

- ・現地の食習慣を知ることができた。
- ・朝食はシリアル、昼食はサンドウィッチ、夕食はパスタでライスが食べたかった。
- ・丸ごとりんごがでてきて驚いた。
- ・機内食の情報がほしかった。
- ・全体的に甘かった。
- ・最後の日にお別れパーティーをしてくれておいしかった。

5) 観光について

- ・研修なので少し観光ができるくらいでも仕方がない。
- ・研修と観光の日を分けてほしかった。
- ・動物園はあまり長い時間はいらぬ。
- ・時間が少なくて、ずっと急いでいたように思える。
- ・もっとゆっくりショッピングがしたかった。

6) 参加費について

- ・参加しやすい費用だった。
- ・短期でももっと行先とか選択できるとよい。
- ・もう少し長く滞在したい。
- ・ホーム・ステイをした分安くなったと思うがやは

り全体的には高いと思う。

7) 今後の海外研修の参加希望について

- ・自分の経験になるからまた行きたい。
- ・英語を勉強してリベンジしたい。
- ・期間とお金があれば参加したい。
- ・楽しく充実していたので、また参加したい。

アンケート結果

研修では、各クラスに分かれて子どもたちと関わる楽しさや、実際に先生方の保育の様子や藤原先生の日本語レッスンも見学できた。園長先生のレクチャーではグループワークによりディスカッションに熱が入ったことが印象深く心に残ったようだ。

ホームステイでは、当初不安と期待が入り混じっていたが、ホストファミリーの優しさや温かさに触れることができ、もっと長く滞在したいという気持ちを抱いている。特に最終日には、ホストファミリーと感慨深い時を過ごすことができた。学生たちはもちろん、迎え入れてくださったホストファミリーの方々もホームステイの短さをあげてください、別れを惜しんだ。

食事では、ホームステイにより実際に異国の文化を体験でき、新鮮さを感じているが機内食にはやや物足りなさや情報不足をあげている。

今回は、経費を最少限にとどめ実施の実現を図ることができたが、短い研修期間の中でも観光も楽しむことができた。しかしながら、観光研修終了後には街中をゆっくりと散策したり、ショッピングを満喫できる時間の余裕を持ちたいという参加者の声が多くあった。実際に現地に行くと経費の負担よりも、長く滞在したい気持ちが高まっていくようだ。

4. 高齢者施設における研修の可能性について

幼児教育の研修に加え、高齢者施設における研修も実施可能であるかを検討するために今回、視察に出向くことができた。

ゴールドコーストの北側に位置するブリスベンの一番南端にある施設であった。

施設は、介護度別に4つのエリアに分けられていて、それぞれに個室や二人部屋とリビングが整えられていた。日本では新型特養（個室化・ユニットケ

ア）と言われて新しいが、日本での新型特養よりもっと生活するための場所という感じがするところであった。各エリアにそれぞれ、庭があり、お年寄りの方々が、リビングよりも庭でお茶をすることが好まれていた。施設の特徴はいくつかあるが、今回の研修で見聞できた範囲では、以下の三つに集約できる。

特色1 「ノーリフトの原則」：職員が介護でご利用者を持ちあげてはいけない原則。

ベットから車いすに自力で移れない方の移乗（トランス）にはトランス専用の福祉機器を使う。利用者も介護者も安全である。であるから、介護者は、腰痛と言うことで労災は認められていない。その代り、トランスのための福祉機器にはいろいろなタイプがあり、利用者の状態に応じて選ばれるように廊下に配置されている。また、トランスのための福祉機器の使用については、理学療法士による使用説明がされて、訓練も課せられている。

特色2 高齢者年金を使って利用していいという施設であるためには、3年に一回、厳しい査察を受けて合格しなければならない。年金利用適格施設に選ばれる基準があり、この制度は高齢者施設に限らず、藤国際幼稚園などは児童手当等を使っていい幼稚園であるという、査察がある。あらゆる国家資金が投じられる施設にあてはまる。福祉施設は社会福祉法人が担うのではなく、民間の経営者でも適格査察に合格することが必要。日本では、そういう方法を第三セクター方式と言っている。

特色3 高齢者施設や児童施設が独立しているというより、町の中に生活施設として位置している。施設だけが単独である環境ではなくて、周りは住宅地であり、高齢者のリタイアメントハウスも隣接している。施設というより生涯の中で、その時の身体状況に応じた住居を選択しているように感じた。

5. 国際交流委員会講演会に取り組む意義

1) 2010年度

- (1) 日 時：2010年11月10日
- (2) テーマ：「オーストラリアの福祉事情」
- (3) 講 師：藤国際幼稚園理事長 藤原一昭氏

2010年度の海外研修旅行は、2011年3月7日から5日間オーストラリアへと計画していた。本学の学

生が将来、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭等の福祉や教育分野を担う者として、オーストラリアの福祉事情を知ること、より広い視点から国際感覚を身につけ日本の教育・福祉を考える機会とした。併せて、海外研修への参加意欲を高められるよう企画した。

2) 2011年度

(1) 日 時：2012年1月18日

(2) テーマ：「なぜ国際交流が必要なのか」

(3) 講 師：野の花の家理事長 花崎みさを氏

児童養護施設「野の花の家」と同法人「FAH こすもす」は、平成7年2月に児童福祉法に基づく母子寮として認可され、公的機関として日本人の母子も含めて9世帯の母子の一時避難所としての機能と自立を援助する機能を果たしている。この実践に基づいた提言から国際化時代の生き方を示唆していただいた。

改めて、今回「国際化」の定義を認識できた。「国際化」とは、各国各々の違いを認めた上で、自国民が他国民と接触・交流し国際協力・相互関係を構築することとある。

加えて「内なる国際化」とは、他国の人々と接触・交流することにより、物の見方考え方を複眼的・多面的なものへと移行させ、私たちの意識・感情・行動のありようを変更・変革して、異質なものを受容できるようにすることである。具体的には、在日外国人の生存権や生活権の保障、共生社会の実現である。この「内なる国際化」を進めるためには、民族や習慣や一人ひとりの違いを認めた上で、人は皆同じという意識を育てて、人間中心社会へと導いていくことがやがて国際交流から国際協力・協働へと繋がっていくことになるという。「内なる国際化」においては、近隣諸国のその国の人々のことをもっと知るよう努め、知ることによって理解を深め、自分の心の中に「異質なものを」除したり、差別したりしていないか、自分ができる協力を自分のレベルで積極的に行っていく。まさしく「心の国際化」とある²⁾。

3) 国際交流委員会講演会に取り組む意義

この「内なる国際化」いわゆる「心の国際化」は、

福祉に携わる学生たちの心にぜひとも届いてほしい key word である。21世紀を担う学生たちが、まさに「心の国際化」を実践し、国際化の扉を開け、世界に羽ばたいて行ってほしいものである。ここに国際交流委員会として講演会を開催していくことの意義が見出され、海外研修旅行としての礎を築いていくにちがいない。

6. 今後の課題と展望

今後の海外研修旅行のあり方として、藤原先生のご協力の元に藤国際幼稚園をベースとした研修が可能になった。ホームステイの体験により異文化を肌で感じることができ、国際感覚が豊かに養われていくであろう。さらには、研修の単位互換化も視野に入れた研修プログラムの確立を今後の検討課題としていきたい。また、今回の視察により、高齢者施設における研修も可能であることから、より選択肢が広がる研修プログラムに成り得ると思われ、海外研修に多くの関心を持ってもらえるよう働きかけていきたい。加えて、大学との連携も踏まえ、より充実した海外研修旅行とし、国際交流の一端を担う人材育成に寄与していきたいと考える。

2009年紀要第10号に植草幼児教育専門学校第20回しおりより、理事長植草昭先生の「実施にあたり」を掲載した。理事長の「若い時に海外体験をすることで人生を大きく変えることがあります。特に幼児教育者になる皆さんが2ヶ年という学生生活中、外国の幼稚園を訪問し、外国語（英語）で園児と触れ合うことは素晴らしい体験になるはずです。さらに英語力のある先生がこれから重要となります。（中略）皆さんの今後の教育活動に大きなプラスになることを願ってやみません。Hope your dream come true.」という言葉に本学の国際交流の意義・理念がある。さらに本学が福祉を学ぶ若い世代に託すことは、形の国際交流にとどまらず、「内なる国際化」であり、国際協力と協働さらに共生へと繋げていくものとなってほしいということである。「海外研修委員会」という名称から2009年以降「国際交流委員会」という名称になり、委員会の活動方向を探りながら活動理念を見出せたのではないかといえる。

謝 辞

2011年度海外研修旅行におきましては、藤国際幼稚園理事長藤原一昭先生はじめ藤原一美様に多大なるご尽力をいただきました。ここに改めて感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 古川繁子 松原敬子 相磯友子 (2009)「本学における海外研修の変遷とあり方」植草学園短期大学紀要10号
- 2) 花崎みさを (2012)「国際交流委員会講演会」レジュメ